

第4章 出土土製品の分析

第1節 土製品の概要

土製品は質・量ともに豊富である。土偶 22 点、土版 6 点、土玉類 391 点、土製小型垂飾 397 点、耳飾 53 点、円形土製品 1 点、ミニチュア土器 2 点、有孔土製品 1 点、円盤状土製品 2 点、そのほか小片 3 点、全 9 種計 875 点ある。特に土玉類・土製小型垂飾・耳飾といった装飾品は 841 点あり、全国的に屈指の量である。

整理の手順は遺物の注記をもとに台帳との照合作業を行った。また注記が不鮮明あるいは不明なものもあるため、新たに弘前大学の整理番号として遺物番号（弘大番号）をつけた。また土玉類、土製小型垂飾、耳飾は集中出土例があるため、グリッド単位でも検討する。

グリッドについては 1965 年の発掘調査において、第一次調査の発掘区をとりこみ西北-東南の方位に長さ 16 m、幅 12 m の調査区が設定された。この調査区を 3×3 のグリッドで 4 段 6 列に仕切り、西南隅から東北方に A～X のグリッド名が与えられている。出土地点の分析はこのグリッド・層位を基準に行う。また、注記が不明なものは弘○といった独自の番号を付けている。

第2節 土偶（図 47・48）（図版 42・43）

土偶は 22 点ある。全て破片で完形品はない。東区 10 点、西区 12 点である。層位別では東区 10～14 層 2 点、東区 15～26 層 8 点、西区Ⅲ層 2 点、西区Ⅳ下層 3 点、西区Ⅴ層 6 点、西区Ⅵ層 1 点である。時期別では山王Ⅲ式期 2 点、大洞 A' 式期 1 点、大洞 A2 式期 6 点、大洞 A1 式期 1 点、大洞 C2 式期 8 点で、おおそ大洞 C2 式期から山王Ⅲ層式期までであるが、山王Ⅳ上層式併行の例はない。

1・2 は東区 10～14 層出土である。1 は胴部の頭髪とみられ左右に T 字形に広がる。2 は右肩～腕部である。3～8、22・23 は東区 15～26 層出土である。22・23 は注記がなく台帳記載からの推測に拠る。3～8 は中空土偶である。3 は頭部、4 は右脚部である。3 と 4 は同一個体とみられる。3 は頭部右側の一部で眼が分かる。5～7 は上脚部の一部である。5・6 は一度外れて破断面をアスファルトで補修した跡が残る。8 は胴～上脚部である。正中線を入れ、臍部を穿孔する。22 は左腕部で肩部に渦巻き文を入れる。23 は右腕部で、肩先には B 突起がある。

9・10 は西区Ⅲ層出土である。9 は中空の頭部でブリッジ状の頭髪があったとみられる。目は 1 条の沈線のみで表現し、耳は穿孔する。10 は右胴～腕部である。肩から胸まで隆帯を入れ、その上を多数の刺突文を入れる。11～13 は西区Ⅳ下層出土である。11 は中空の頭部で幅 10 cm を超える大型品である。頭髪は 9 と同じブリッジ状であるが、眼や口は刻目を入れた隆帯で環状に表現する。12 は中実の胴部下半～上脚部である。腹部から脚部にかけて細かな刺突が多数施される。13 は頭髪上部である。横方向の多重沈線で表現される。図 48-1～6 は西区Ⅴ層出土である。1 は胴～左腕部、2 は右肩～腕部である。いずれも胴部は中空だが腕部は小さめで中実になる。上半は横沈線を 3 条ほど入れる。1 の腹部は正中線を入れその両脇に連続弧文を施す。3 は頭部である。頭髪を欠くが、ブリッジ状の頭髪があったとみられ、基本型は図 47-11 と同じである。眼や口は刻目を入れた隆帯で環状に表現する。4～6 は胴下半の一部である。うち 4・5 は上脚部である。4 の股は穿孔する。4・5 とともに一度外れたとみられ、破断面にアスファルトによる補修跡が残る。6 は胴下部から左脚部が残る。胴部は中空で、脚部は中実である。正中線は刺突で表現し、その両脇を二重の連続弧文を施す。下腹部は多数の刺突を施し、上脚部は同心円文である。脚部の底部は大きく開き、おそらく直立できるとみられる。6 は中実の上半部である。板状の小型品で、中空の大型品とは異なる造りである。両耳は大きく穿孔し、眼

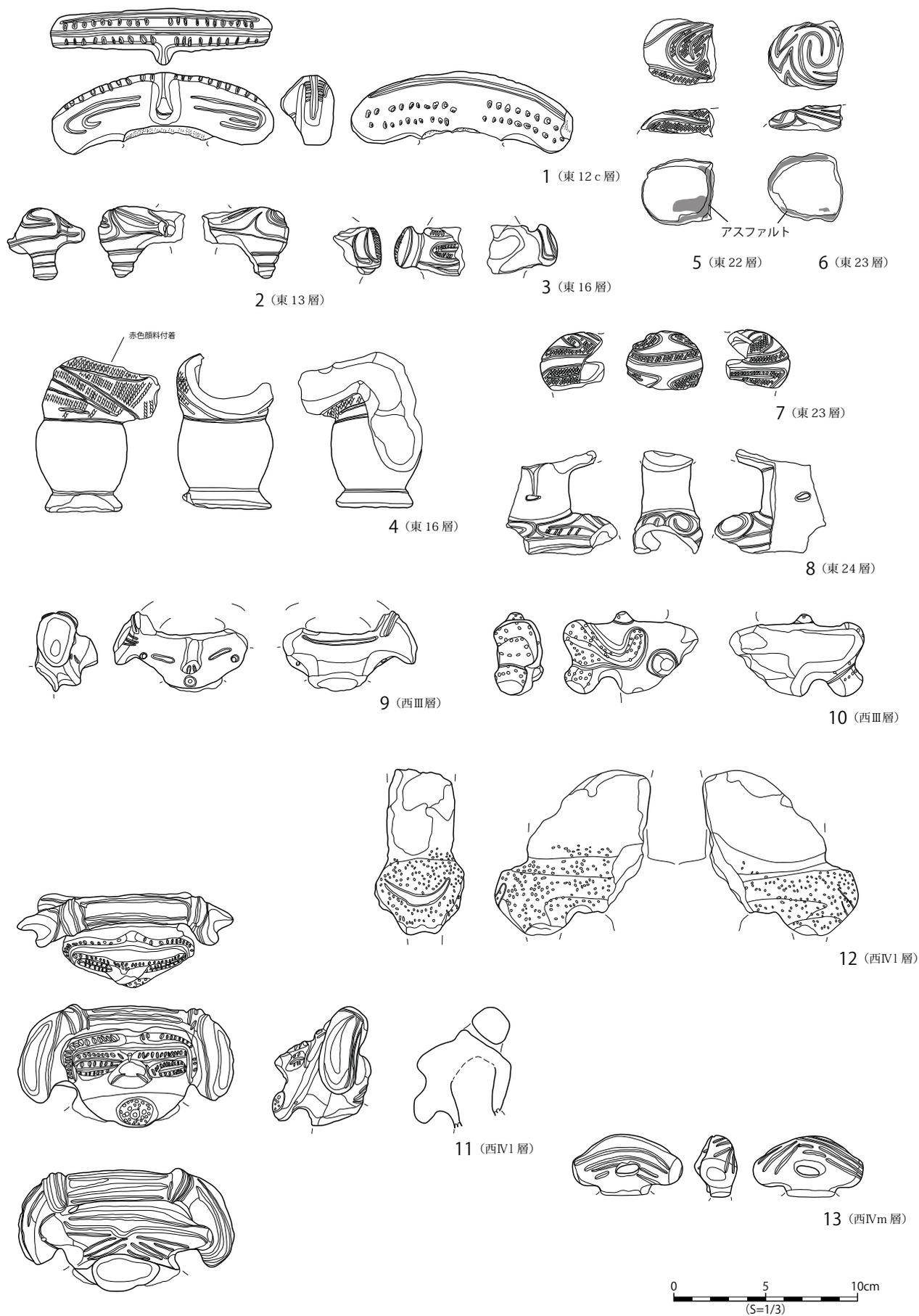


図47 山王冢遺跡土製品1 土偶1

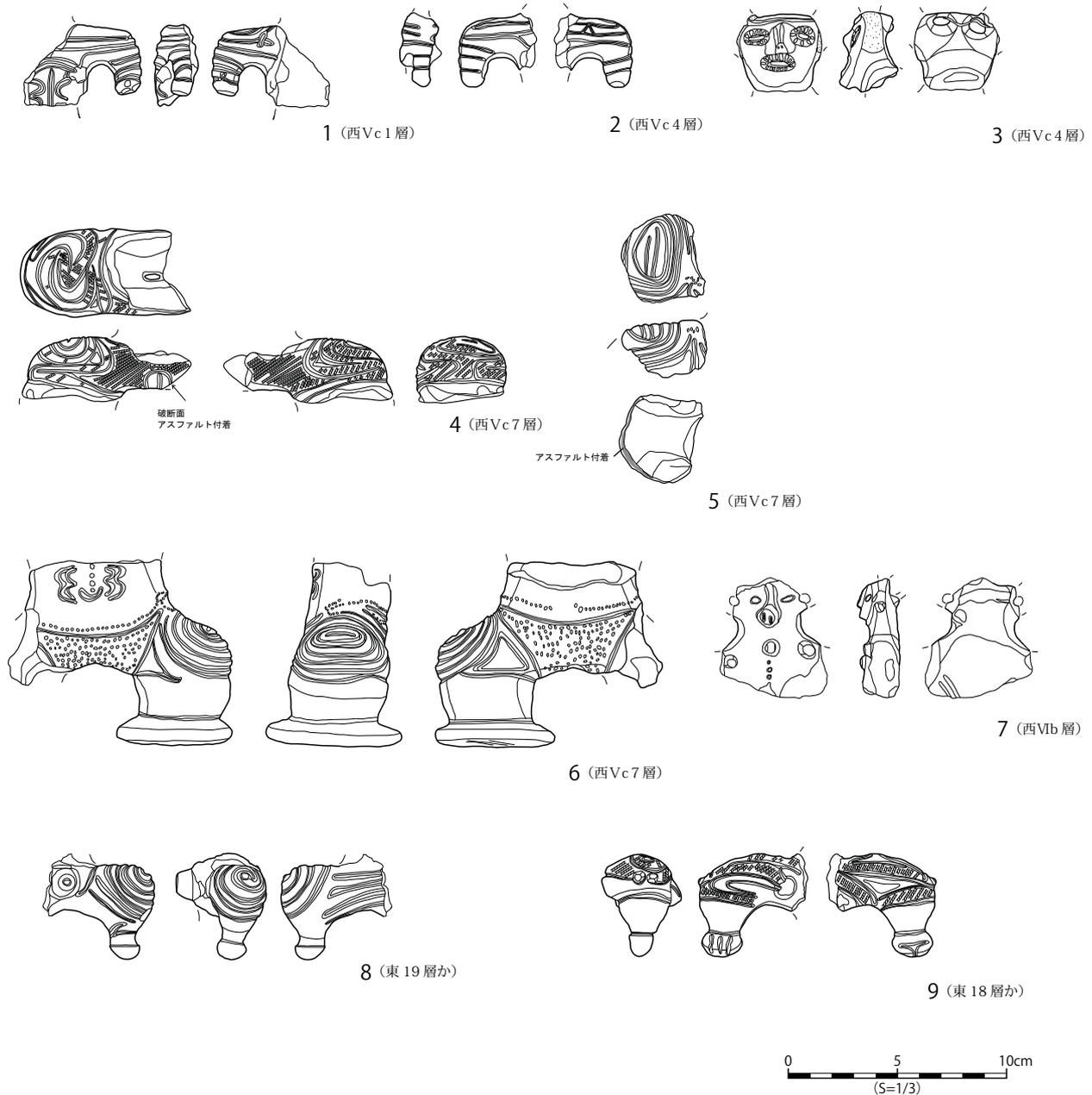


図48 山王冢遺跡土製品2 土偶2

と口は刺突で表現される。両胸は粘土を貼り付け、その間隔が広い。正中線は刺突で表現される。

第3節 土版 (図49) (図版44)

土版は6点ある。全て西区V～VII層出土である。1～3は西区V層出土で大洞A2式期に属す。1～3は方形である。1は大型品の一部、2は4cm角の小型品、3は大型品の1/4程度の破片で長さ14cmほどに復元される。主文様は3点全て同じである。文様は正中線を入れ、両脇に多重のコの字形文を上下2単位配置する。このモチーフは岩版(図45-5)にもある。2は上部の左右に2ヶ所穿孔があり、3も同じ穿孔があったとみられる。6は西区VII層出土である。方形で7cm角の小型品である。文様は

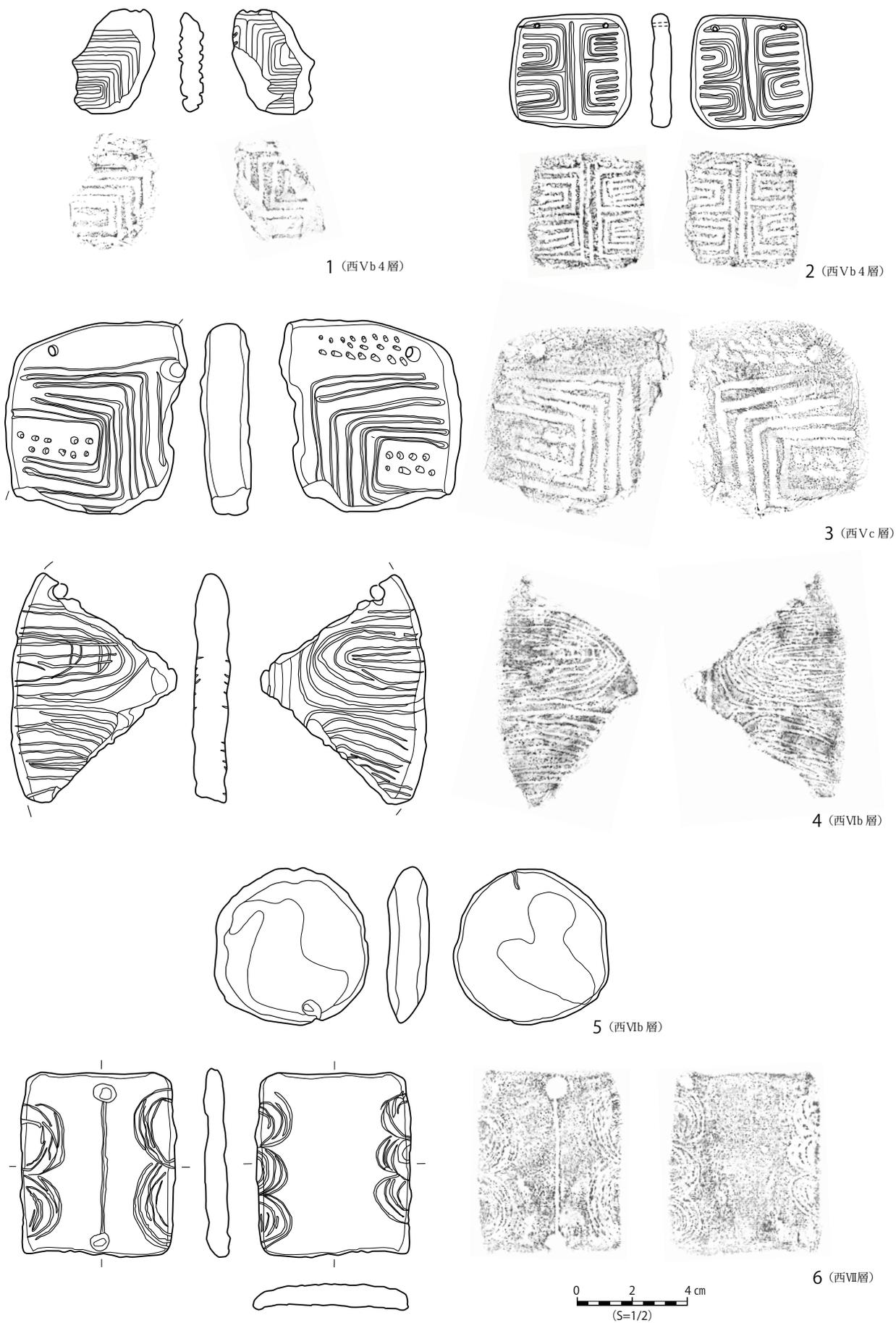


図 49 山王冢土製品 3 土版

1～3と異なり、上下に凹みのある正中線を入れ、左右両脇に連続する多重の弧文を配置する。弧文は表面が2単位、裏面は3単位ある。硬質で一見岩版に見える。施文モチーフも岩版(図45-1・2)に類似する。4・5は西区VI層出土で、大洞A1式期に属す。4はハンバーグ形の楕円形、5は小型の円形である。4は8.4×6.1cmで1/4ほどが残り、16×12cmの大型品に復元される。文様モチーフは6と同じで、正中線をいれ、左右両脇に連続する多重の弧文を配置する。上部の左右に2ヶ所穿孔があったとみられる。5は円板形で無文、無穿孔である。

第4節 土玉

(1) 土玉類の分類

土玉類は集中出土地点2ヶ所を除けば390点ある。平面・断面形態、施文による種類は丸玉・棗玉・平玉・括れ玉・管玉・楕円玉・方形玉・施文玉・円盤玉・十字玉・三角玉・勾玉・V字形垂飾など少なくとも12種と多様である(図50)。

丸玉：主に球状。平面・断面ともに正円に近いもの。5点(図51-1～5)。

棗玉：平面は円形で、小口面を面取りすることで、断面が隅丸長方形を呈するもの。66点(図51-6～71)。

平玉：平面は円形で、小口面を広く面取りすることで、断面が長方形を呈するもの。23点(図52-1～23)。

括れ玉：平面が円形で、断面が隅丸方形に近いもののうち、側面中央に沈線を巡らせることで全体形が括れるもの。108点(図53-1～78、図54-1～30)。さらに穿孔の位置によってA・B類に分ける。

管玉：円柱状を呈するもの。直径1に対して厚さが1.5以上のもの。側面中央に沈線を巡らせる。7点(図54-31～37)。

楕円玉：側面を面取りすることにより、平面・断面ともに楕円形を呈するもの。沈線を巡らせ施文する。78点(図55-1～78)。

方形玉：側面と上下面、小口面を面取りすることにより、平面・断面ともに隅丸方形あるいは隅丸長方形を呈するもの。55点(図56-1～55)。

施文玉：棗玉、楕円玉、方形玉を基調として、その外面に単沈線以外の文様があるものを便宜的にここに区分する。26点(図57-1～26)。

円盤玉：円盤状を呈し、側面から穿孔する。施文がある例もある。4点(図57-27～30)。

十字玉：沈線などにより、側面が十字形を呈するもの。2点(図57-31・32)。

三角玉：小口面が三角形を呈するもの。2点(図57-33・34)。

V字形垂飾：下部が二股に分かれた逆V字形の垂飾。2点(図57-35・36)。

そのほか、破損により形態分類不明が11点ある。

9割近くの土玉類は赤色顔料が付着することから、赤彩され、赤色顔料が認められなかったものも、摩耗により赤彩が剥がれたと



図50 土玉類の分類

思われるものが多く、土玉類は全て赤彩されたと推定される。また胎土が黒色なものが232点（60%）あり、土器とは異なり、ススが吸着するようなおき火といった比較的低温下での焼成が考えられる。

（2）土玉類の分類別分析

a. 丸玉（図 51-1～5）（図版 45）

5点あり、出土数は少ない。西区4点、不明1点である。出土層位は西区V層（大洞A2式期）3点、VI層（大洞A1式期）1点で、西区V層にまとまる。

大きさは長さ4.1～7mm・平均5.1mm、幅3.6～4.2mm・平均3.98mm、厚さ2.7～4.5mm・平均3.9mm、孔径0.8～1.7mm・平均1.26mm、重さは0.1～0.2g・平均0.12gである。断面は円形に近いが、正円はなくやや歪む。全て赤彩される。

b. 棗玉（図 51-6～71）（図版 45）

66点ある。東区1点、西区64点、不明1点で西区に偏る。層位は東区11層（大洞A式期）1点、西区V層（大洞A2式期）39点、西区VI層（大洞A1式期）23点で大洞A式期を通じてみられる。特に西区IVa・Vc7・Vc1層で10数点あり、およそ西区VI層上層から西区V層下層の間に集中する。西区V層上層では少なくなる。グリッド別では西区ではMグリッド11点、Qグリッド16点、Uグリッド10点とVc層の分布域に多い。

大きさは径2.3～11.4mm・平均5.26mm、厚さ2.8～8.7mm・平均4.68mm、孔径0.9～3.6mm・平均1.95mm、重さは0.1～0.7g・平均0.16gである。図51-7・61・70・71は径約8mmで平均より2倍ほどの大型品である。図51-6・7・9のように径よりも長さが短く白玉に近いものと、図51-61・65・66・70・71のように、径よりも長さが大きく管玉に近いものがある。ほとんどに赤彩がされる。

c. 平玉（図 52-1～23）（図版 46）

23点ある。東区2点、西区21点ある。層位は東区10層1点、東区21層1点、西区VI層2点、西区V層19点で圧倒的に大洞A2式期の西区V層に多い。棗玉と同じくVc7層とVc1層が7・8点と集中する。西区VI層上層で現れはじめ西区V層下・中層で集中し、西区V層上層では少なくなる傾向である。グリッド別ではM・Rグリッド各5点が目立ち、これも棗玉と同じである。

大きさは径3.2～7.3mm・平均4.8mm、長さ2.4～5.2mm・平均3.2mm、孔径0.9～2.6mm・平均1.86mm、重さは0.1～0.2g・平均0.11gである。図52-3は径4mmの最小品、図52-2は径7mmで最大品である。図52-2は東区21層出土で唯一大洞C2式期に位置づけられる。またこの資料は大きさの割には軽いため、胎が粘土ではなく植物である可能性がある。ほとんどが赤彩される。

d. 括れ玉（図 53-1～78、図 54-1～30）（図版 47・48）

108点ある。小鼓形を呈し表裏の小口面に穿孔されるものをA類、円筒形を呈し、側面に穿孔されるものをB類とした。括A類102点、括B類6点ある。東区1点、西区105点、不明2点ある。層位は東区11層1点、西区IV上層1点、西区V層92点、西区VI層11点であり、大洞A2式期の西区V層に多い。特にVc7層61点、Vc4層とVc1層で10数点出土しており、棗玉や平玉と同じく、Vc7層に偏る。グリッド別では西区Qグリッド31点、Mグリッド25点、Nグリッド19点で、Mグリッドは棗玉や平玉と同じであるが、Q・Nグリッドに多いのは特徴的である。括B類は西区V層のみにあり、なかでも西区Vc7層Nグリッドに多い。

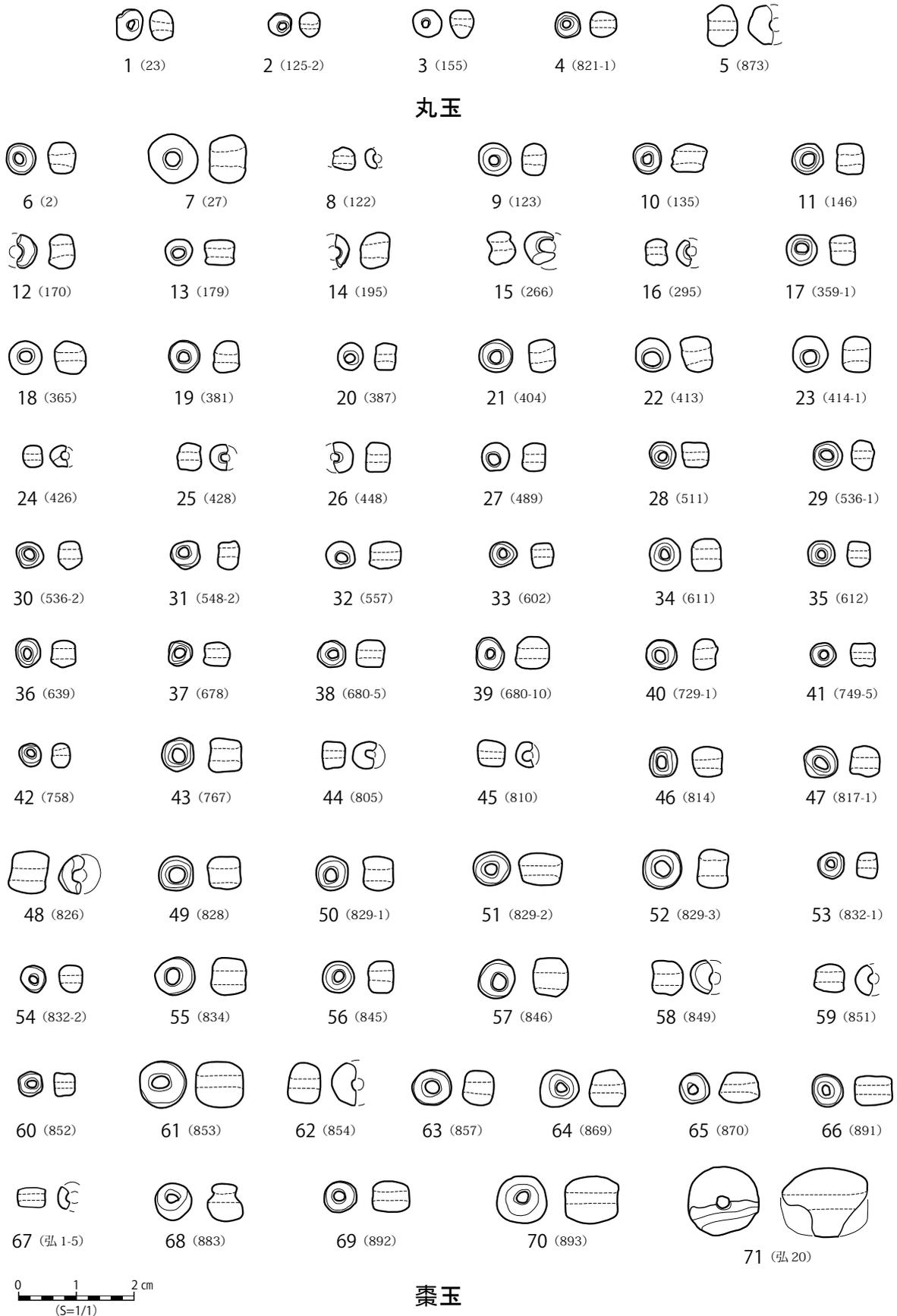


図51 山王冢遺跡土玉類1 (丸玉・棗玉)



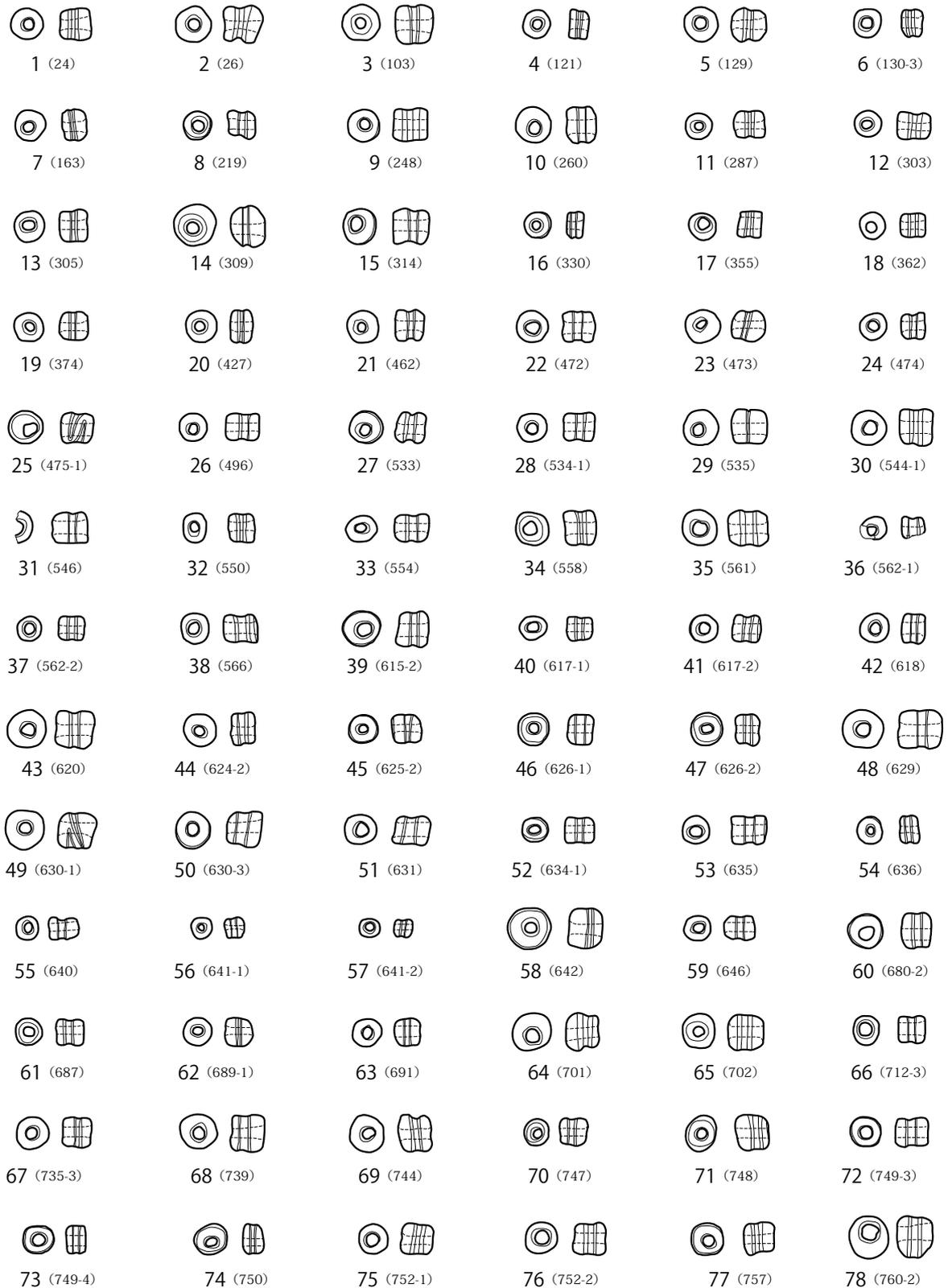
図 52 山王冨遺跡土玉類 2 (平玉)

全て側面に 2・3 mm ほどの沈線を一周巡らせることで全体形が括れる。大きさは、径 3～9.3 mm・平均 4.8 mm、長さ 2.2～6.7 mm・平均 4.6 mm、孔径 1.1～2.9 mm・平均 1.95 mm、重さ 0.1～0.3g・平均 0.16g である。図 53-1～図 54-24 は括A類、図 54-25～30 は括B類である。括A類をみると、図 53-36・56・57 は径 3 mm ほどの最小品、図 53-58 が径 7 mm ほどの最大品である。図 53-16・20・54・57 など、長さ 3 mm 以下で径より短く円盤状であるのに対し、図 53-35・48・72、図 54-20～24などは径より長さが大きく管玉に近くなる。括B類をみると、図 54-25・26 の 2 点は上下を面取りせず小型垂飾に類似する。27～30 は上下を面取りして円柱形にし、側面に 2・3 mm ほどの沈線を巡らせた後、その沈線の上に穿孔する。27・28・30 は沈線を一周巡らせるが、29 は二周巡らせる。全てに赤色顔料が付着する。

e. 管玉 (図 54-31～37) (図版 48)

7 点ある。柱状あるいは棒状を呈し、径と長さの比が 1：1.5 程度のものである。全て西区出土である。層位は西区V層 6 点、西区VI層 1 点で上記の土玉類と同じ傾向にある。なかでも V c7 層 5 点を占める。グリッド別では N～S グリッド各 1・2 点と散漫する。

大きさは径 3～5.7 mm・平均 4.2 mm、長さ 4.8～7.5 mm・平均 6.4 mm、孔径 1.1～2.5 mm・平均 1.2 mm、重さ 0.1～0.2g・平均 0.15g である。32 は沈線を一周巡らせ、括れ玉に類似するが、その他は 2 周以上の沈線を巡らせる。37 は長さが 8.5 cm で最も長く沈線も 4 本巡る。全てに赤色顔料が付着する。



括れ玉 A

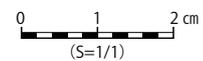
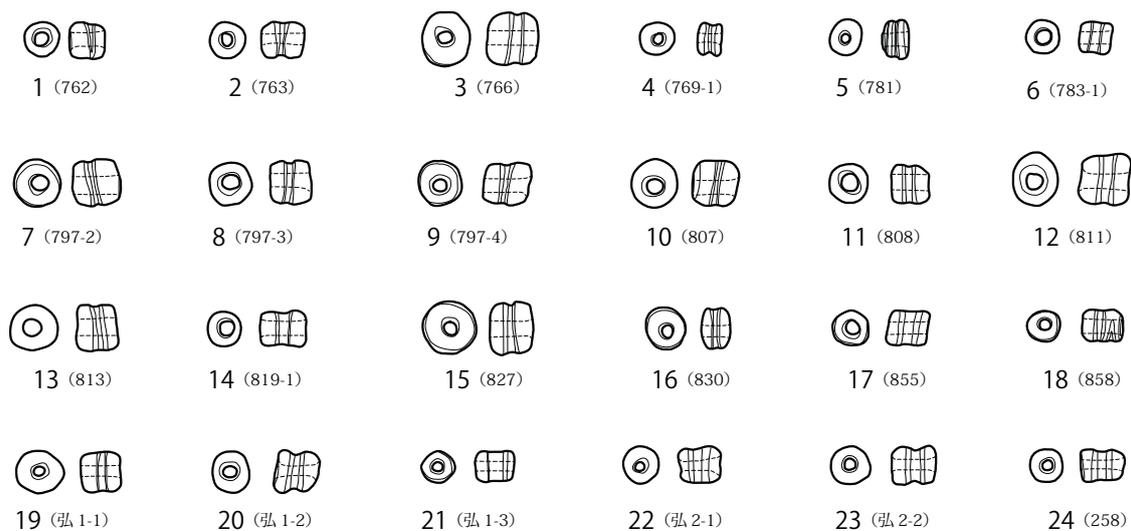
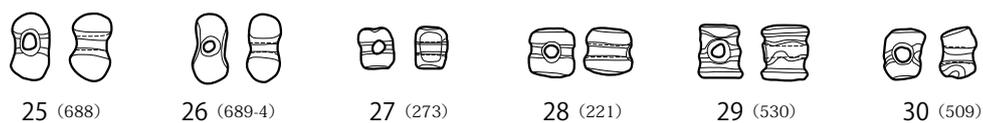


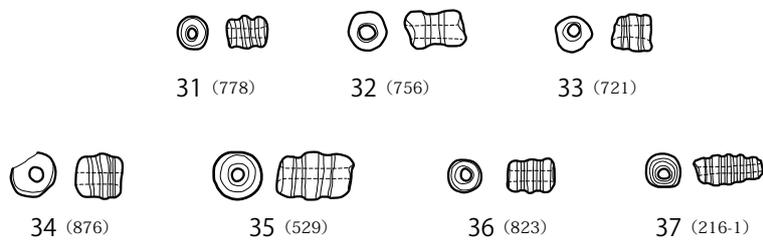
図 53 山王圀遺跡土玉類 3 (括れ玉)



括れ玉 A



括れ玉 B



管玉

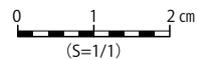
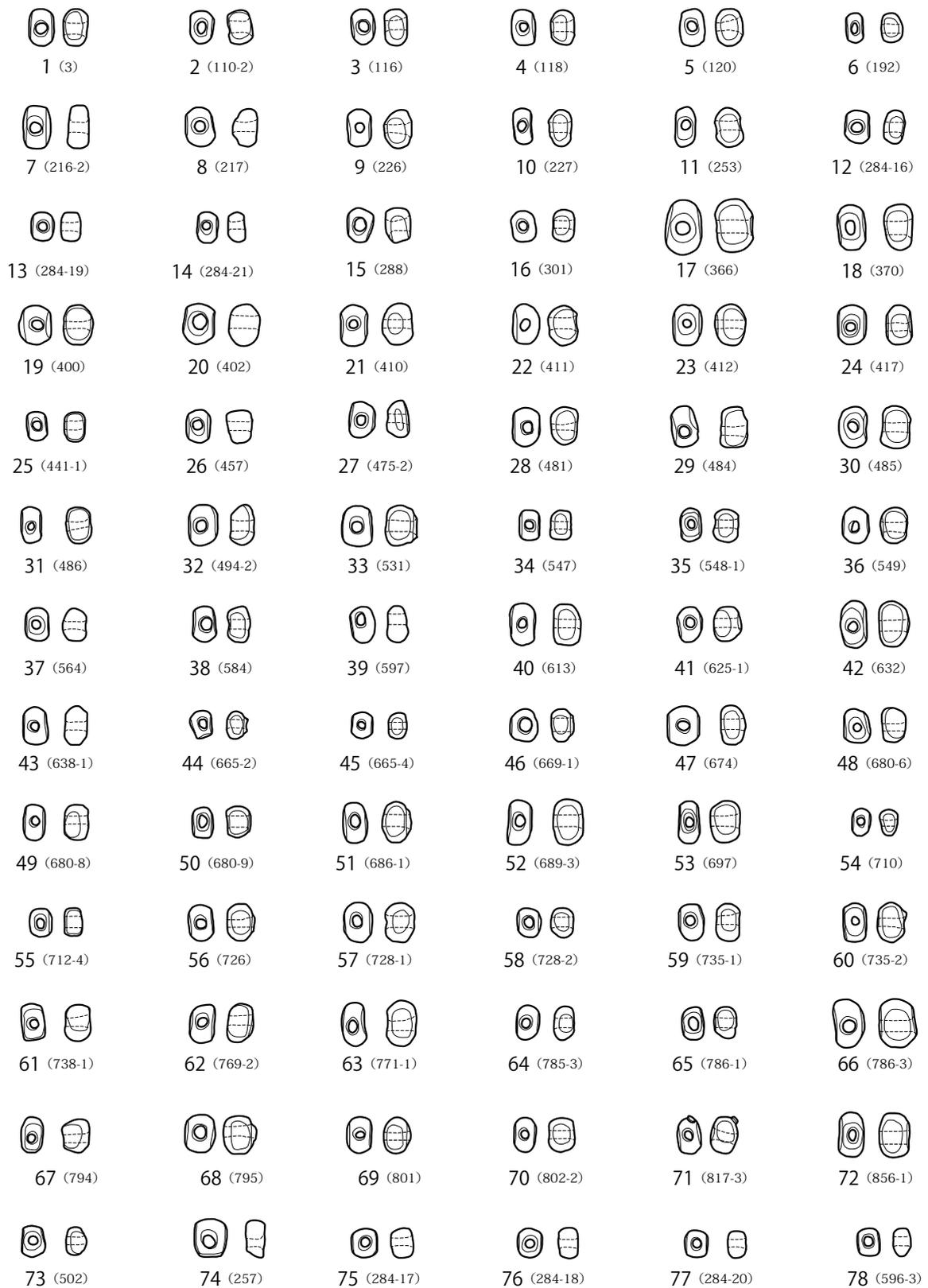


図 54 山王冢遺跡土玉類 4 (括れ玉・管玉)



楕円玉

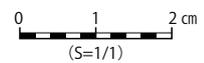
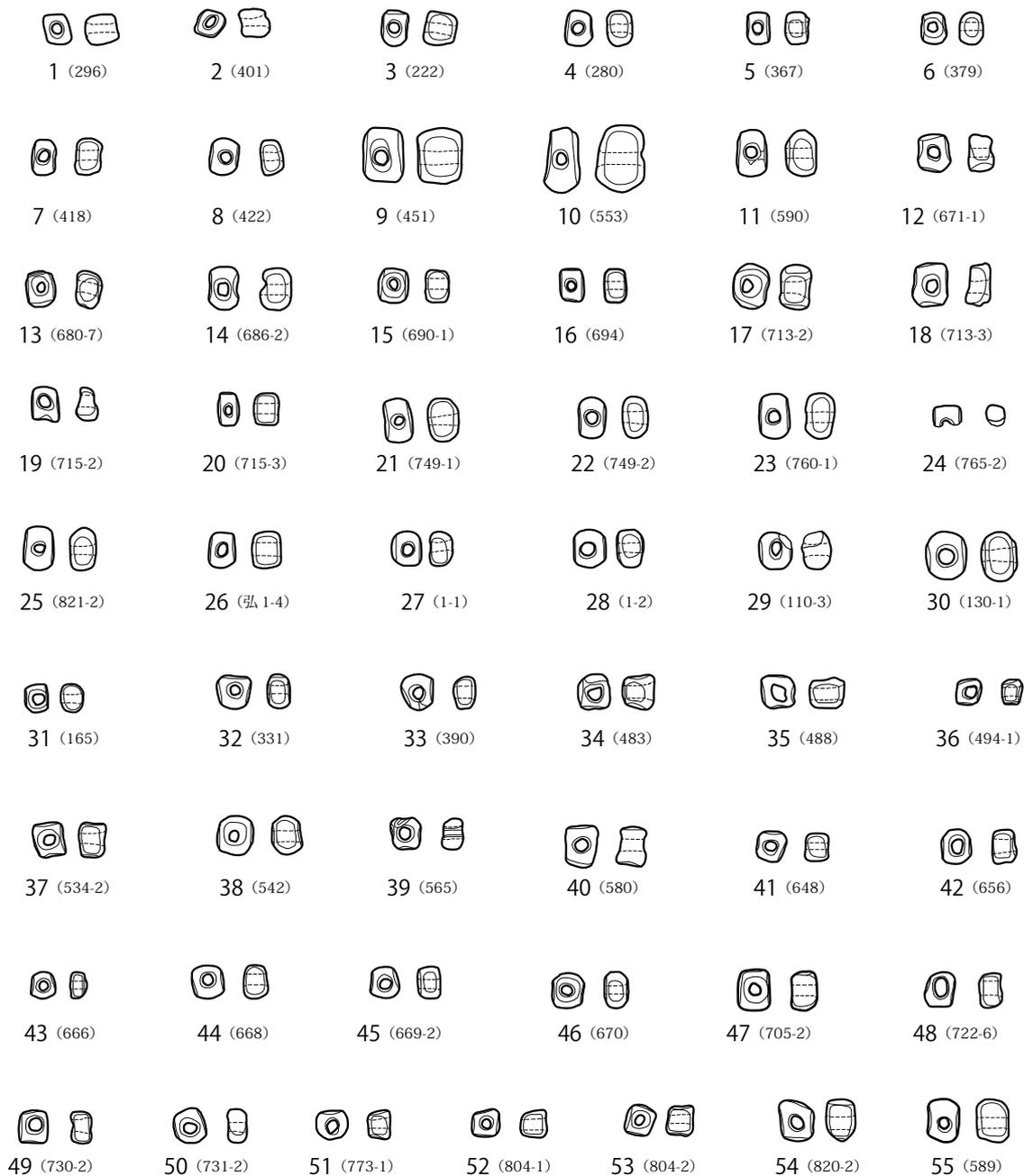


図 55 山王冢遺跡土玉類 5 (楕円玉)



方形玉

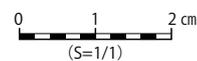


図 56 山王冢遺跡土玉類 6 (方形玉)

f. 楕円玉 (図 55-1 ~ 78) (図版 49)

78点ある。78点全て西区出土である。層位は西区IV下層1点、西区V層68点、西区VI層2点で、大洞A2式期の西区V層が圧倒的である。特にVc7層で40点とまとまり、大洞A'式期には激減する。グリッド別ではNグリッド16点、Rグリッド15点、M・Qグリッド10点が目立ち、上記ほかの土玉類と同じ傾向にある。

形態は板状工具で粘土玉を挟んで左右側面をつぶすことで、つぶされた部分が平坦となり、断面が隅丸長方形となる。大きさは長径4.2~8.4mm・平均5.8mm、短径2.5~5.1mm・平均3.8mm、長さ2.5~5.7mm・平均3.7mm、孔径0.9~3.1mm・平均1.72mm、重さ0.1~0.5g・平均0.13gである。最大径は楕円玉のため上下間にあり、6mmを超えるものが31点と半数近くを占める。図55-17・66は最大品である。一方、図55-45・54は径4mm程の最小品である。図55-19・21・22・23・37などは写真をみると穿孔部周辺がわずかに平坦であり、穿孔後にはみ出した粘土を切り落とした跡と推定される。全てに赤色顔料が付着する。

g. 方形玉 (図 56-1 ~ 55) (図版 50)

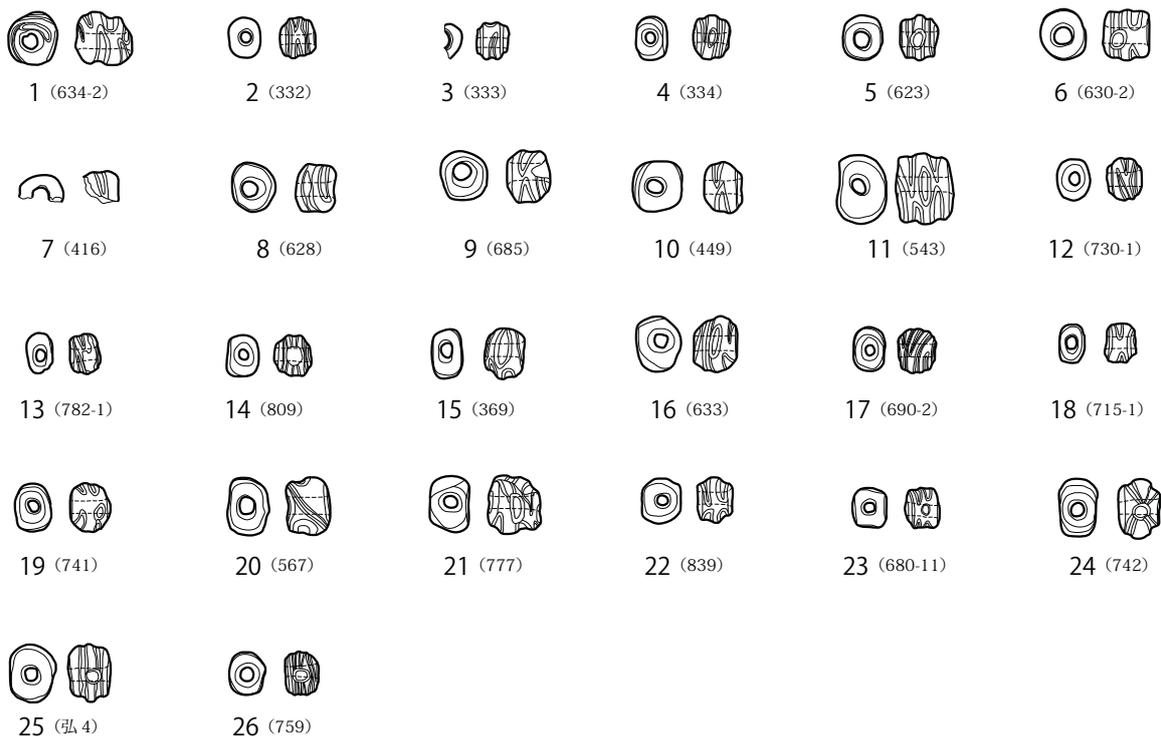
55点ある。側面だけでなく、上下面と小口面も面取りすることにより立方体、直方体に近くなり、平面・断面ともに隅丸方形あるいは隅丸長方形、ひし形を呈する。全て西区出土である。層位は西区IV下層1点、西区V層50点、不明4点で、上記の土玉類と同じく大洞A2式期の西区V層にまとまる。なかでもVc7層19点、Vc1層7点でこれも上記土玉類と同じ傾向にある。グリッド別ではNグリッド25点が突出する。

形態は楕円玉と同じ要領で左右側面をつぶすことで、つぶされた部分が平坦となる。さらに上下もつぶす。ただし、上下の平坦面は凹面となる例が多いことから、指でつまんで整形したとみられる。大きさは長径2.6~9.8mm・平均5.2mm、短径2~5.3mm・平均4.0mm、長さ1.1~7.1mm・平均3.5mm、孔径1.1~2.8mm・平均1.8mm、重さ0.1~0.4g・平均0.13gである。図56-9・10は長径7mmを超える最大品である。一方、図56-31は径4mm程の最小品である。図56-1・2のように小口面が菱形となるものと、図56-3・4・5など小口面が長方形になるものがある。全てに赤色顔料が付着する。

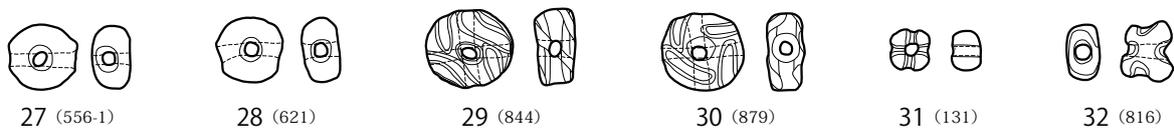
h. 施文玉 (図 57-1 ~ 26) (図版 51)

上記棗玉、楕円玉、方形玉を基調として、その外面に単沈線以外の文様があるものを便宜的にここに区分する。26点ある。全て大洞A2式期の西区V層出土である。なかでもVc7層17点と集中し、上記土玉類と同じ傾向にある。グリッド別ではMグリッド6点、Nグリッド4点にまとまり、これも他の土玉類と同様である。

施文までの製作法は楕円玉と同じで、左右側面をつぶして平坦面を作り出した後、そこに沈線で施文する。大きさは長径4.5~8.6mm・平均6.0mm、長さ3.7~6.8mm・平均4.8mm、孔径0.6~2.9mm・平均1.8mm、重さ0.1~0.5g・平均0.18gである。楕円玉に比べ径は同じであるが、長さはやや長い。図57-11・21・24は長径7mmを超える大型品である。施文手順は製作と並行して行われているようであり、両面の小口に当たる場所に沈線を巡らせて区画、あるいはそこを境に切断する。施文モチーフは主に、二重沈線を巡らせ、その間に刺突をいれるもの(4・5・6・11・14など)と、沈線を十字に交差させその交点に刺突を入れるもの(21・24)、沈線を渦巻き状に巡らせるもの(8・12・17)の3種がある。25の写真(図版51)をみると、小口面に板のような植物圧痕が残り、面取りの方法が分かる。全てに赤色顔料が付着する。

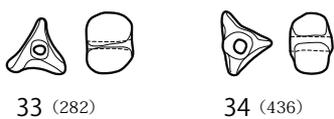


施文玉



円盤玉

十字玉



三角形玉



V字形垂飾

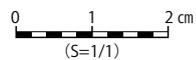


図 57 山王冢遺跡土玉類 7 (施文玉・円盤玉・十字玉・三角玉・V字形垂飾)

i. 円盤玉 (図 57-27 ~ 30) (図版 51)

4点ある。円盤状を呈し、側面から穿孔する。無文と有文の2種がある。27・28は無文で西区MグリッドVc層出土である。側面と表裏面双方から穿孔され、内部で穿孔が十字に交差する。大きさは径8.6mm、長さ5mmほどで他の土玉類に比べて大型である。29・30は西区層位不明である。赤漆が塗布されるため、漆器類が多数出土しているV層以下に属すとみられる。上記無文と同じく側面と表裏面双方から穿孔され、内部で穿孔が十字に交差する。施文は穿孔部を取り巻くように弧文が入れられる。大きさは径約10mm、長さ4.8mmで、土玉類の中で大型品である。

j. 十字玉 (X字玉) (図 57-31・32) (図版 51)

2点ある。沈線を十字に施文することで、平面形が十字形を呈す。31は、西区Va層出土である。沈線を十字に入れ、その交点を穿孔する。大きさは径4.7mmで他の土玉類と同じ大きさである。32は西区VI層出土である。X字状を呈する。沈線を十字に深く入れ、側面に穿孔する。径7.6mmで大型品である。いわゆる四隅突出土製品に類似する。赤色顔料が付着する。

k. 三角玉 (図 57-33・34) (図版 51)

2点ある。側面を指でつまむことによって、小口面が内湾する三角形を呈す。33・34とも形態や胎土、焼成も同じで出土位置も西区NグリッドVc1層であることから、本来はセットだった可能性がある。大きさは径約7mm、長さ約5.5mmで、土玉類の中では大型に属す。類例は、北海道～青森県津軽地方と岩手県北部～中部に認められるが個数は非常に少ないとされる(金子2016)。

l. V字形垂飾 (図 57-35・36) (図版 51)

2点ある。下部が二股に分かれた逆V字形の垂飾でいずれも西区Vc7層出土である。三角形にした粘土塊を三指でつまむことで、三叉状に成形する。内湾する二辺に穿孔する。高さ約9mm、横幅約10mm、厚さ4.7mm、重さ0.5gである。いずれも赤色顔料が付着する。

第5節 土製小型垂飾

土製小型垂飾は399点ある。そのほか集中部の資料を出土状態のまま取り上げた資料2点もあり、実数がさらに多い。いわゆる瓢箪小玉類（金子2006）で、こ

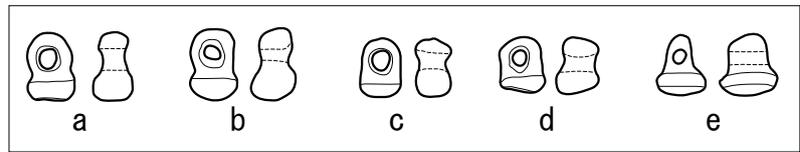


図58 土製小型垂飾の分類

れらは高さ3～10mmと玉類の中では小さく、かつ上部が薄い穿孔部、下部が水滴形に膨らむ構造であり、装飾的な効果をもつこと、高めるために吊り下げる機能をもつことから、「垂飾」とした。

(1) 土製小型垂飾の分類

土製小型垂飾は平面形により以下のように分類した（図58）。

- a類：南京錠のような形を呈するもの。上部の穿孔の下がくびれ、上・下部の境に沈線を巡らせるなど、その境を明瞭にする。下部が水滴形に膨らみ、底面は平坦か凹む。かつ上部のほうが下部より大きいものが多い。133点（図59-1～図60-61）。
- b類：達磨形を呈するもの。上部の穿孔の下がくびれ、上・下部の境に沈線を巡らせるなど、その境を明瞭にする。下部が水滴形に膨らみ、底面が丸い。かつ下部のほうが上部より大きいものが多い。41点（図61-1～41）。
- c類：楕円形を呈するもの。上下部間の括れが弱く、下部が球状に膨らみ、底面が丸い。かつ上下部の大きさが同じものが多い。102点（図62-1～図63-24）。
- d類：縦長の蒲鉾形を呈するもの。上下部間の括れが弱く、下部が球状に膨らむが、底面は平坦か凹む。117点（図64-1～図65-39）。
- e類：側面観が逆T字形あるいはスタンプ形を呈するもの。上下部間の括れが強く、下部が三角錐状に開き、底面は平坦か凹む。4点（図65-40～43）。

a～e類ほぼ全てに赤色顔料が付着することから、赤彩されたと推定される。また胎土が黒色なものが217点（54%）あり、土器とは異なり、土玉類と同じようにススが吸着するようなおき火といった比較的低温下での焼成が考えられる。

(2) 土製小型垂飾の分類別分析

a. a類（図59-1～図60-61）（図版52・53）

133点ある。東区2点、西区131点ある。層位は東区10層2点、西区IV下層2点、西区V層101点、西区VI層4点、不明24点で土玉類と同じく大洞A2式期の西区V層にまとまる。特にVc7層で56点、Vc1層で24点と集中する。西区IV上層と東区15～26層および西区VII層にはないことから大洞A1式期に出現し、大洞A2式期で最盛期を迎え、弥生時代には消滅するとみられる。グリッド別ではRグリッド27点、Nグリッド22点、M・Qグリッド14点でRグリッドが多い。

上部の穿孔部と大きさは高さ4.3～10.2mm・平均6.3mm、幅3.1～7.3mm・平均4.4mm、厚さ2.5～6.6mm・平均4.1mm、孔径1～3.1mm・平均1.8mm、重さ0.1～0.5g・平均0.14gである。図59-29、図60-17・19は高さ10mmを超える大型品である。一方、図60-24・25は高さ4.3mmの小型品である。

図59-2・29・59・61・71などのように上下の段の分かれ目を沈線ではっきりと区切るものが多い。図60-10・16・32・38の4点は上部の頭に沈線を入れる。また図60-39～61のように下部がつぶれてスタンプ形になる例もある。

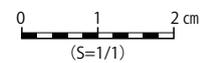
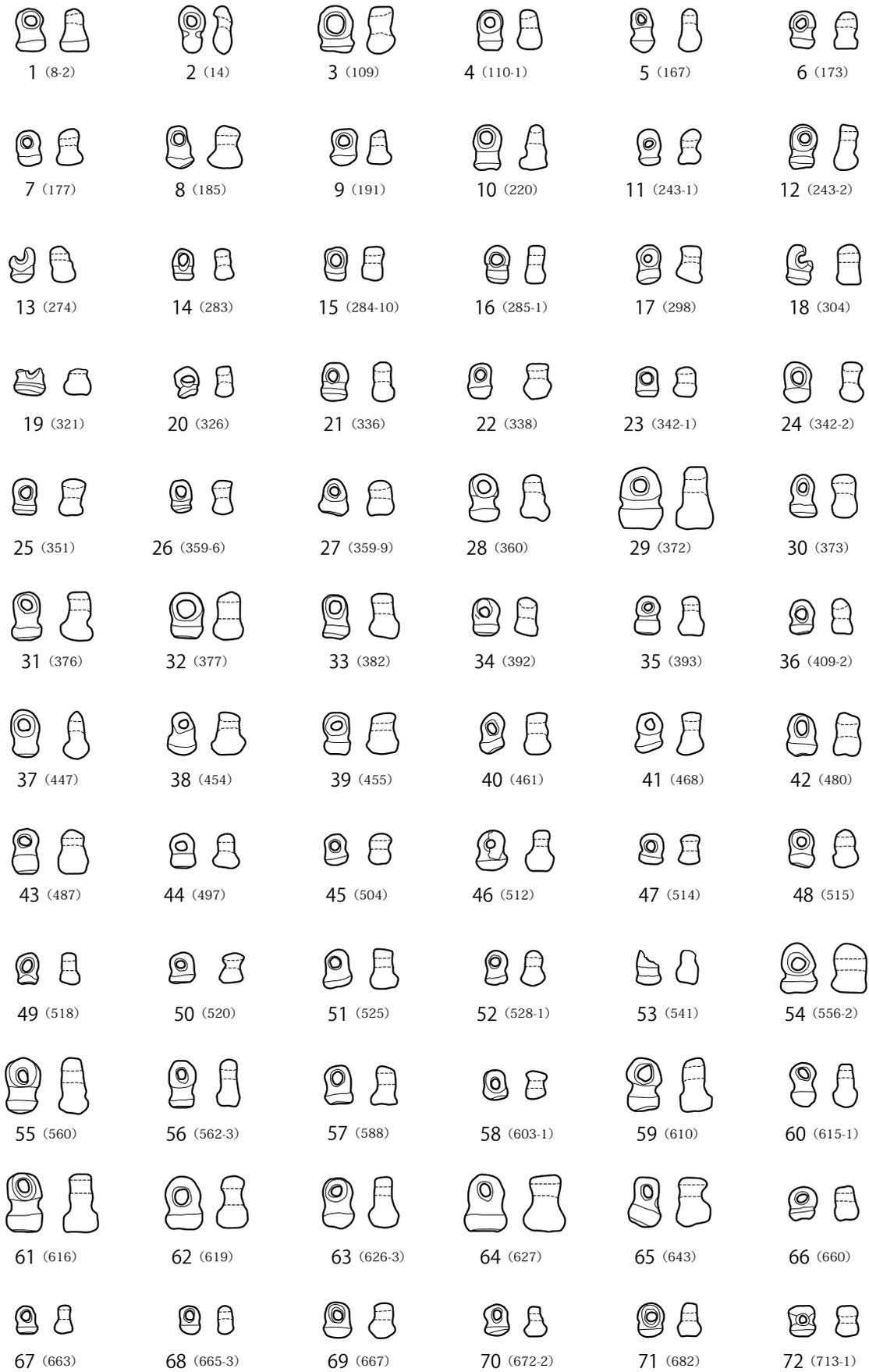


図 59 土製小型垂飾 1 (a類)

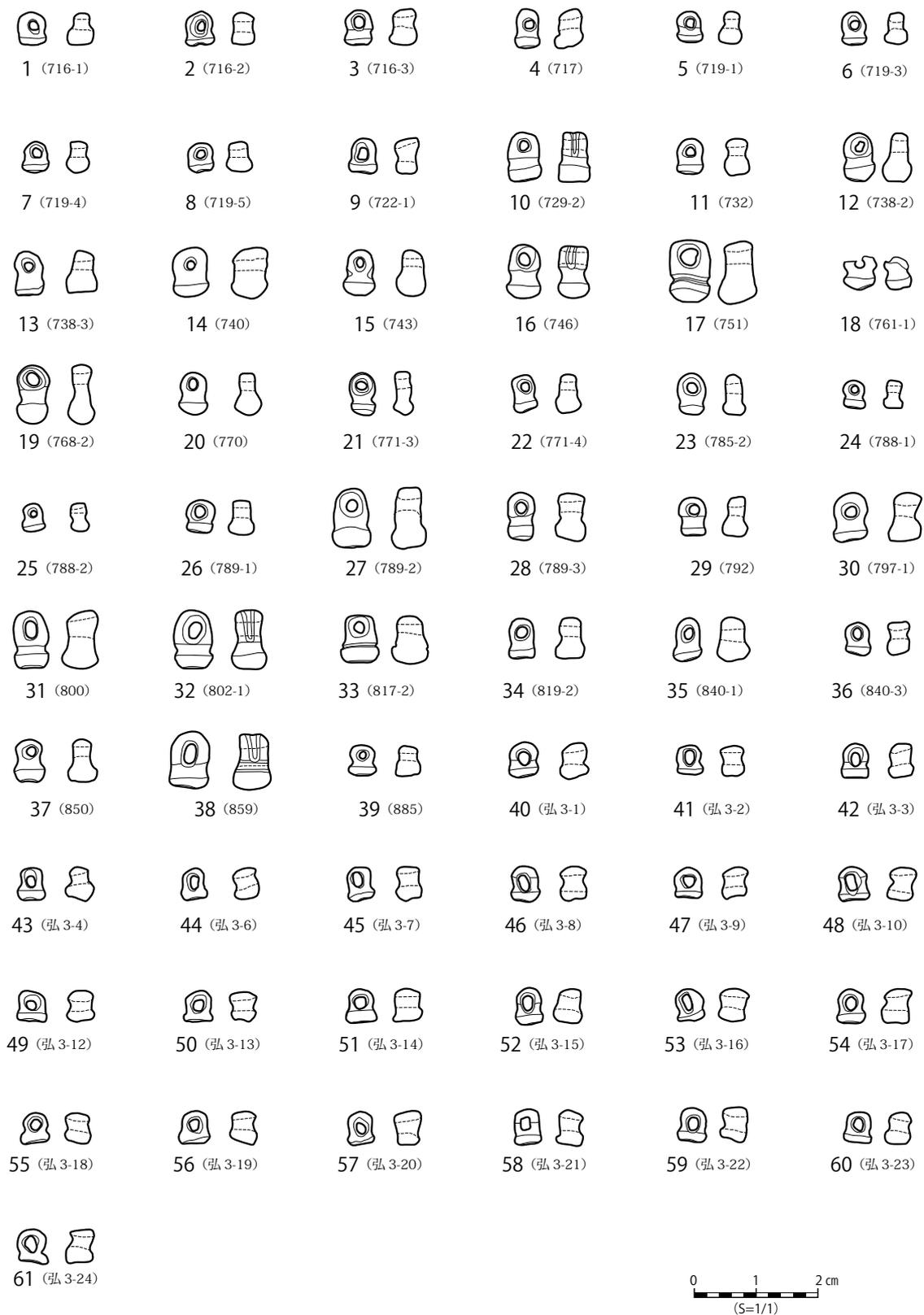


図 60 土製小型垂飾 2 (a 類)

b. b類 (図 61-1 ~ 41) (図版 54)

41 点ある。底面が丸くかつ下部のほうが上部より大きいものが多いのを特徴とする。全て西区出土である。層位は西区IV下層 1 点、西区V層 36 点、西区VI層 2 点、不明 1 点で、a類と同じく大洞A2式期の西区V層にまとまる。なかでもVc7層 17 点、Vc1層 9 点と集中する。グリッド別ではNグリッド 11 点、Mグリッド 10 点が多く、a類に多かったRグリッドは少ない。

大きさは高さ 4.8 ~ 9.7 mm・平均 7.1 mm、幅 3.1 ~ 6.1 mm・平均 4.3 mm、厚さ 2.9 ~ 5.6 mm・平均 4.0 mm、孔径 0.8 ~ 3.5 mm・平均 1.7 mm、重さ 0.1 ~ 0.3 g・平均 0.14g である。A類に比べ底面が丸い分高さが大きくなる。図 61-21・36 などは高さ 9 mm を超える大型品である。一方図 61-3 は高さ 4.8 mm の小型品である。図 61-6・14・24・26・37 などのように上下の段の分かれ目を沈線ではっきりと区切るものが多い。

c. c類 (図 62-1 ~ 図 63-24) (図版 55・56)

102 点ある。全て西区出土ある。層位は西区IV下層 1 点、西区V層 95 点、西区VI層 1 点、不明 5 点で、上記と同じく大洞A2式期の西区V層にまとまる。なかでもVc7層 29 点、Vc1層 27 点、Vc4層 13 点と集中する。グリッド別ではRグリッド 22 点、Nグリッド 20 点、Mグリッド 16 点で、a類と同じ傾向にある。

形態的には上下部間の括れが不明瞭で弱い。これは、a・b類が上下の段の分かれ目を沈線で区切ることで括れを強調していたのに対し、c類にはこの方法がとられず主に指でつまんで窪ませることに起因するとみられる。

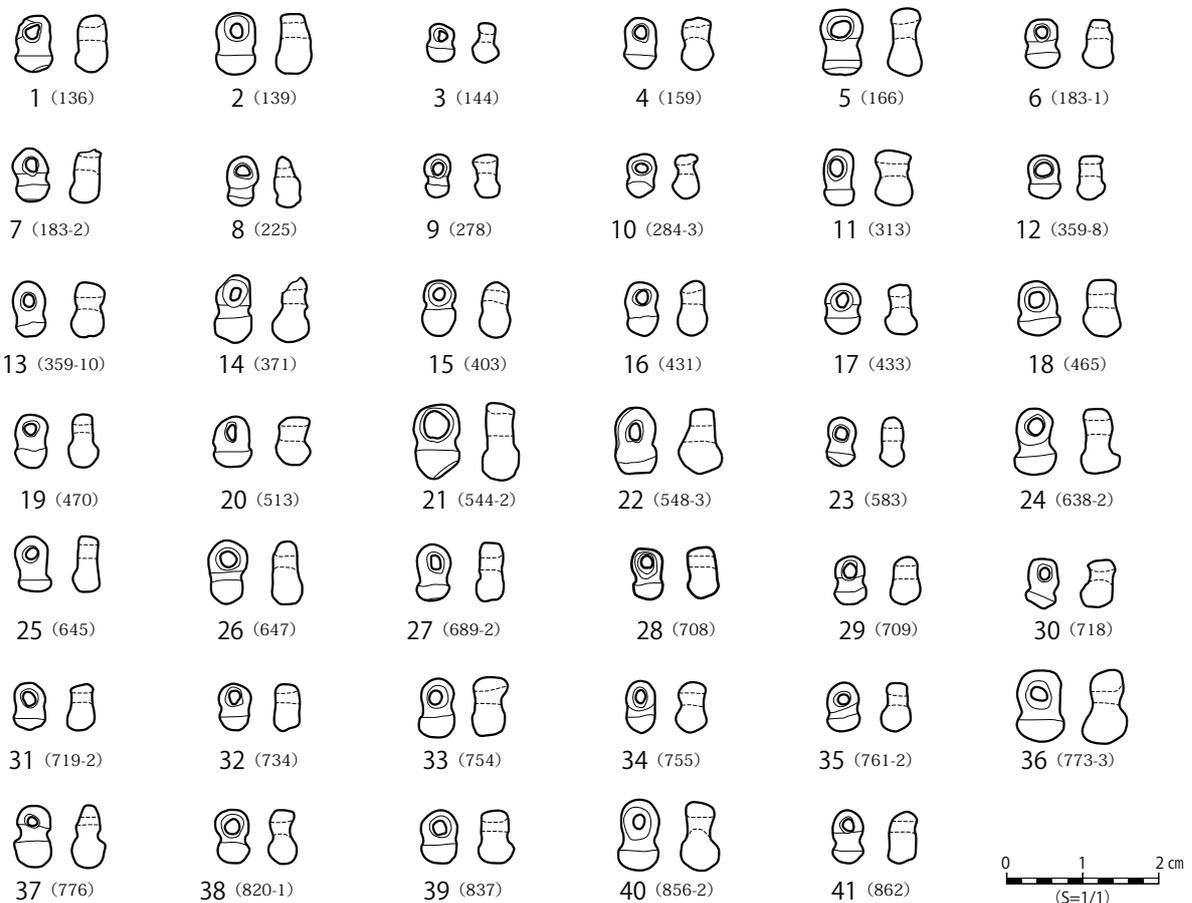


図 61 土製小型垂飾 3 (b 類)

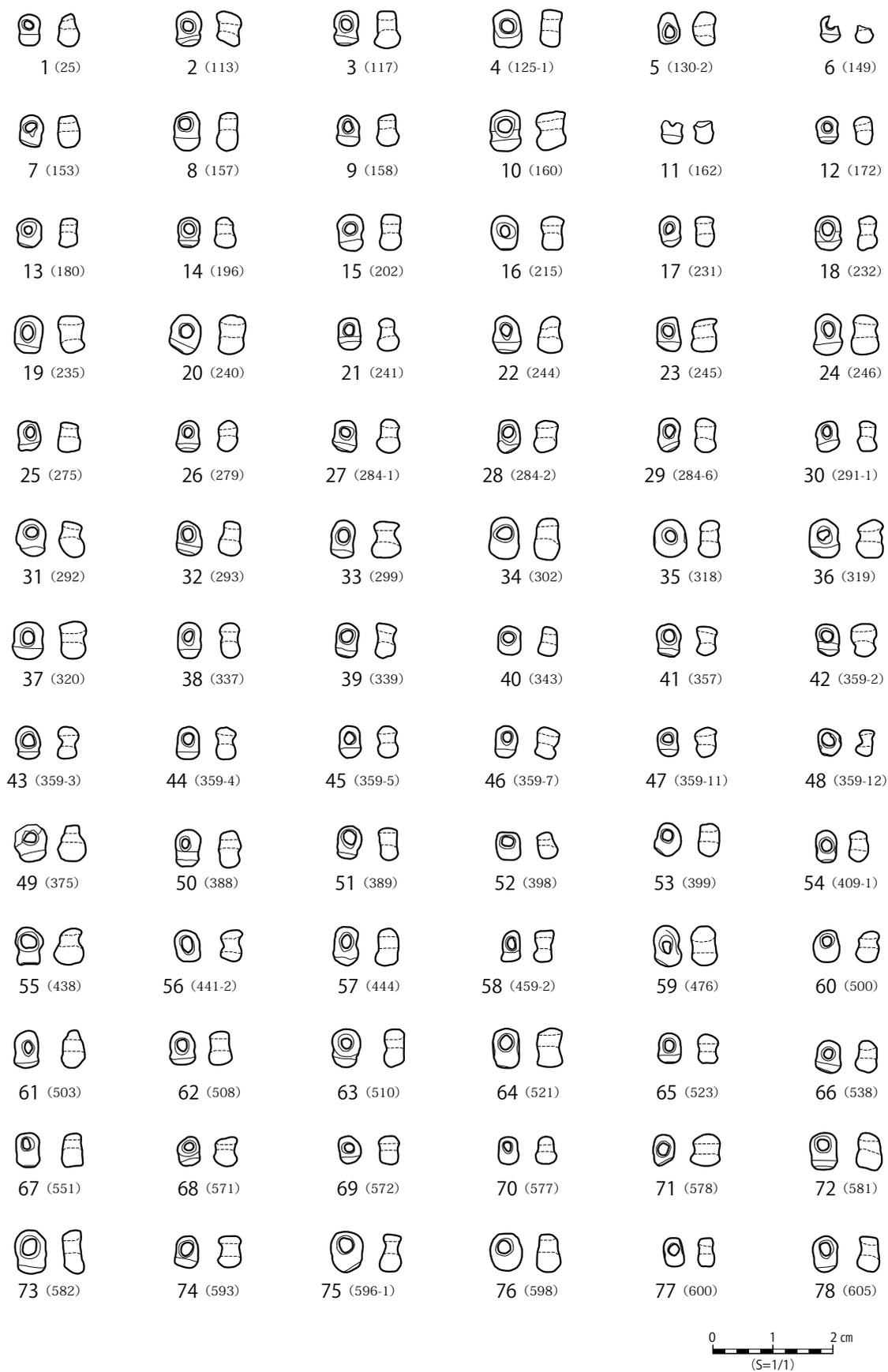


図 62 土製小型垂飾 4 (c 類)

大きさは高さ 4.3～7.5 mm・平均 5.5 mm、幅 2.9～5 mm・平均 3.9 mm、厚さ 2.2～5 mm・平均 3.4 mm、孔径 0.9～3 mm・平均 1.9 mm、重さ 0.1～0.2g・平均 0.11g である。a・b 類に比べ全体的に小ぶりで、高さ 8 mm を超える大型品はない。図 63-2・19 は高さ約 7.5 mm で c 類のなかでは大型品である。図 62-12・28、図 63-4 が高さ 4.3 mm の小型品である。図 62-16・35・75・76、図 63-16 など、くびれがほとんどなく楕円形に近い。図 62-48・56・58 などは造りがやや粗く、孔径のほうが下部よりも大きい。

d. d類 (図 64-1～図 65-39) (図版 57)

117 点ある。全て西区出土である。層位は西区 V 層 104 点、不明 13 点で、ほぼ全て大洞 A2 式期の西区 V 層に属す。なかでも V c7 層 44 点、V c4 層 18 点、V c1 層 15 点とまとまる。グリッド別では N グリッド 30 点、R グリッド 26 点、M グリッド 11 点と a・c 類と同じ傾向にある。

c 類と同じく、形態的には上下部間の括れが不明瞭で弱い。c 類と同じく、主に指でつまんで窪ませていたとみられる。c 類とは異なり底面平坦か凹む。この作業によって、下部のほうが上部よりも膨らむ。底面の平坦面は縦軸に対し斜め向きの場合も多い。大きさは高さ 3.8～7.5 mm・平均 5.2 mm、幅 2.7～5.8 mm・平均 4.0 mm、厚さ 2.4～5.5 mm・平均 3.5 mm、孔径 0.9～2.7 mm・平均 1.8 mm、重さ 0.1～0.2g・平均 0.11g である。c 類と同じく、a・b 類に比べ全体的に小ぶりで、高さ 8 mm を超える大型品はない。図 64-49、図 65-9 は高さ約 7.5 mm ほどで d 類のなかでは大型品である。図 64-64、図 65-10 が高さ 3.8 mm ほどの小型品である。図 64-16・35・75・76、図 65-16 など、くびれがほとんどなく楕円形に近い。図 64-49 は上部の頭に沈線を入れる。図 64-2・3・15、図 65-21・34・38 などのように、下部がつぶれて穿孔が中央にある例もある。

e. e類 (図 65-40～43) (図版 58)

4 点ある。全て西区出土である。層位は西区 V 層 2 点、西区 VI 層 2 点で数が少ないにもかかわらず大洞 A1 式期の西区 VI 層に多い。グリッド別では D グリッド 3 点を占める。大きさは高さ 5.1～7.4 mm、幅 4.8～6.8 mm、厚さ 3.2～5.1 mm、重さ 0.1～0.3g である。寸法は b 類に近い。図 65-43 のみ高さ 7.4 mm の大型品で側面から穿孔される点で他とは異なる。

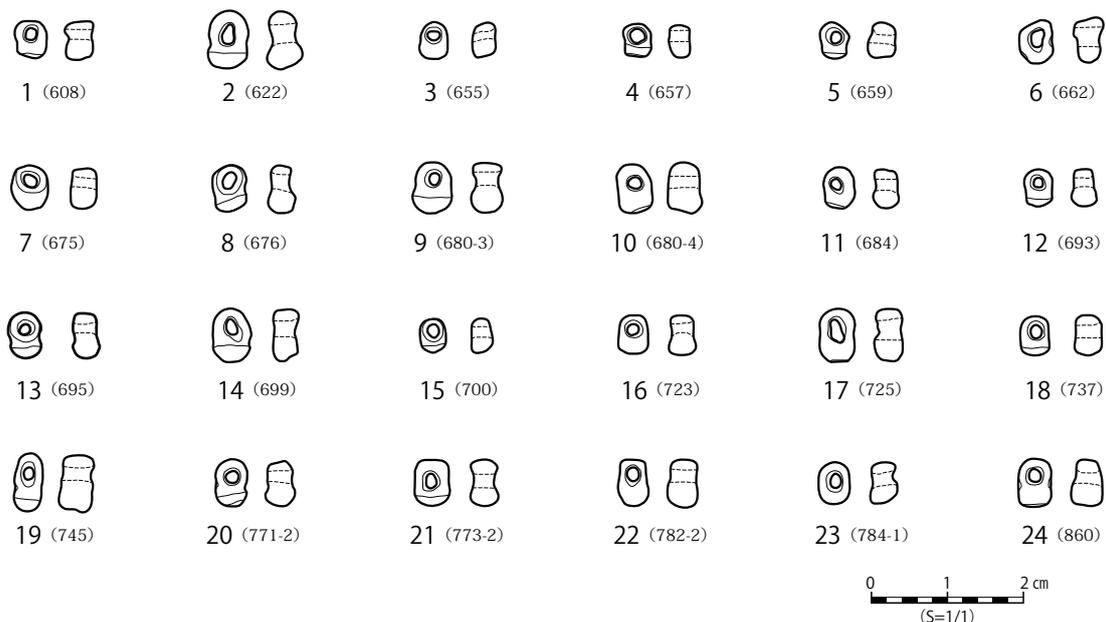


図 63 土製小型垂飾 5 (c 類)

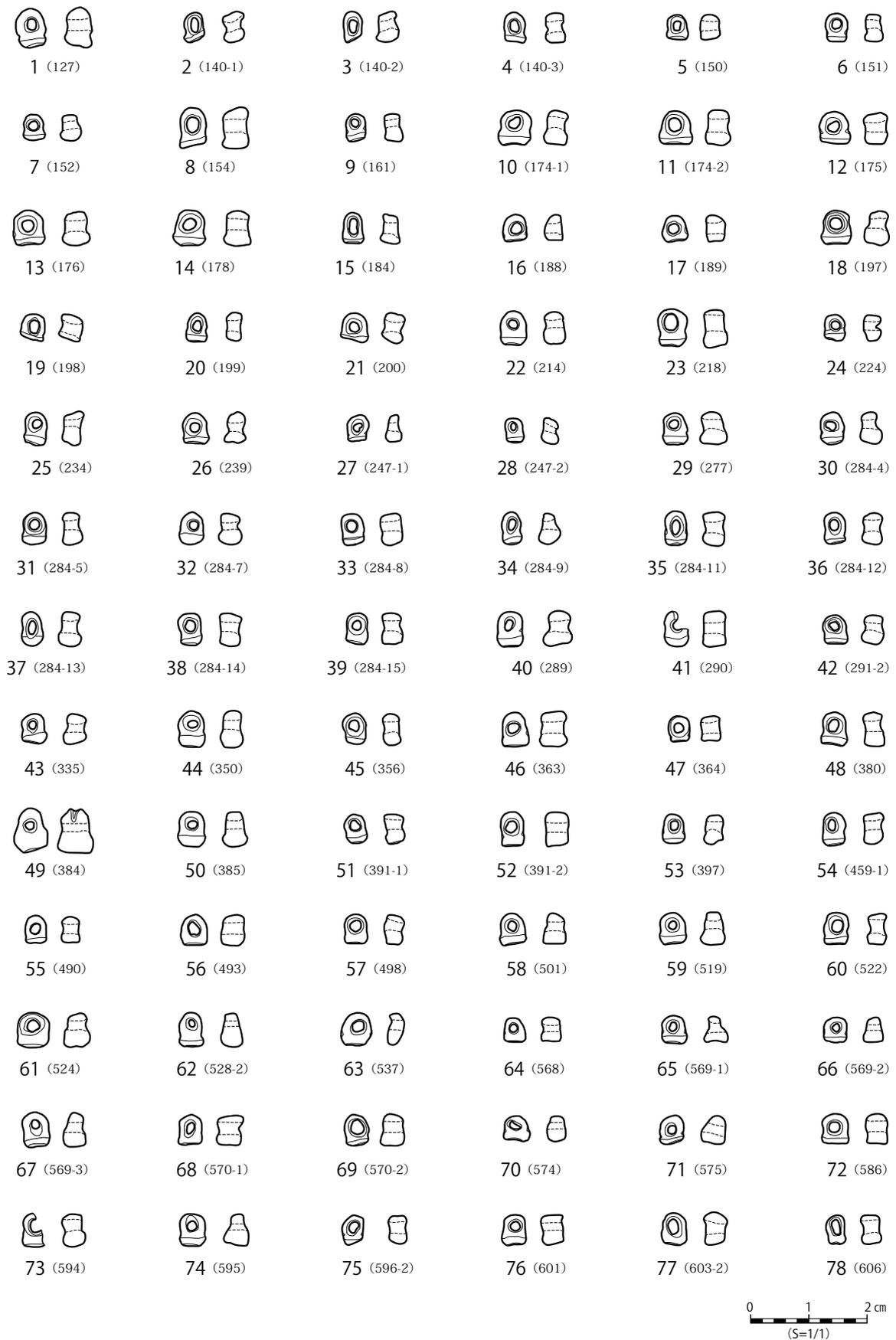
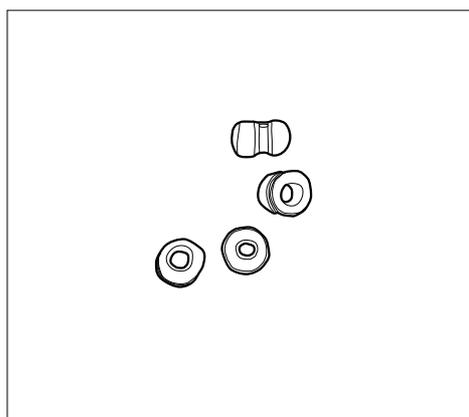
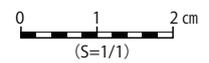
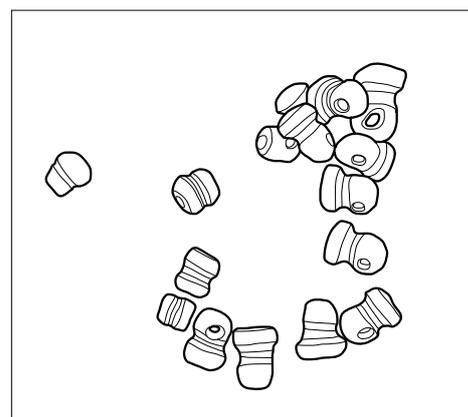


図 64 土製小型垂飾 6 (d 類)



44 (弘3-25)



45 (532)

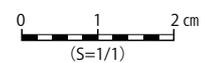


図65 土製小型垂飾7 (d類・集中地点)

第6節 土製耳飾

53点ある。土製耳飾の分類は平面・断面形態により3種に分類した。

(1) 土製耳飾の分類 (図66)

- ネジ状：頭部が盛り上がり、周縁断面が角張るネジのような形で規格的である。装着部を中心に片側が大きくなる左右非対称で肥厚し開く。無文で貫通孔がある。赤色顔料を塗彩する。39点 (図67-1～28、図68-1～11)。
- 猪口状：片方の径が大きいもの。断面形が装着部から端までやや内湾する。11点 (図68-12～22)。
- 臼状：装着部を中心に内外双方が対称的に開く。3点 (図68-23～25)。
滑車形耳飾はない。

(2) 土製耳飾の分類別分析

a. ネジ状 (図67-1～28、図68-1～11) (図版60・61)

39点ある。土製耳飾では最も多い。完形・略完形30点、半分以下の破片9点がある。東区2点、西区37点である。内訳は東区10層2点、西区IV下層3点、西区V層28点、不明6点であり、大洞A2式期の西区V層、大洞A'式期のIV下層にまとまる。なかでもVc7層8点、Vc4層5点で土玉類とほぼ同じ傾向にある。グリッド別ではQグリッド10点、Nグリッド5点が目立つ。なお図67-1・27および図67-9・10、図67-2・図68-2はそれぞれセットで取上げされており、耳飾りの使用・廃棄を知るうえで貴重な例である。

形態は中央が括れた円柱（一葉双曲面）で、その両端が隆起する。一方の端はキノコのカサのように開き、もう一方は角張りつつ突出した後すぼまる。多くは両端に貫通孔を穿たれる。耳栓の耳朶の穿孔箇所には、はめ込むという用途を考えると、中央の括れた円柱部が装着部と考えられる。調整はナデの後に磨き、その上を赤漆を塗布のことが多い。ネジ状の大きさは高さ12～20mm・平均17mm、外部径13～21mm・平均18mmである。各部位ごとの高さをみると、外部4～7mm・平均5.3mm、装着部5～9mm・平均6.4mm、内部2～8mm・平均5.2mmである。また外部以外の径は、装着部6～10mm・平均8.2mm、内部9～14mm・平均11.4mm、孔2～8mm・平均5.6mmである。重さは1.3～4.8g・平均2.8gである。ほぼ全て赤彩が施される。

穿孔の断面形をみると、①平行になるもの (図67-3・4・6ほか)、②外部から内部にかけて漏斗形になるもの (図67-1・5ほか)、③外部から内部にかけて内湾するもの (図67-9・15ほか) がある。内訳は①平行14点、②漏斗形13点、③内湾3点である。

また炭とみられる黒色付着物が、図67-6・8・13など12点に認められる。また図67-1・6・19など4点には灰とみられる白色付着物が認められる。

b. 猪口状 (図68-12～22) (図版61)

11点ある。完形・略完形6点、半分以下の破片5点があり破損品が多い。西区8点、不明3点ある。内訳は西区IV上層2点、西区V層4点、西区VI層1点で大洞A2式

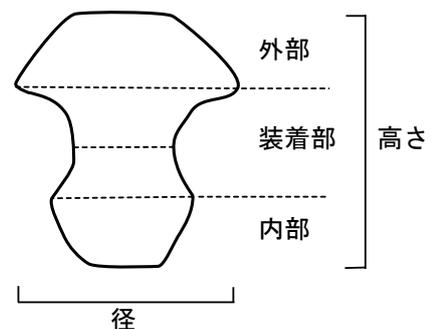


図66 ネジ状の部位及び計測範囲

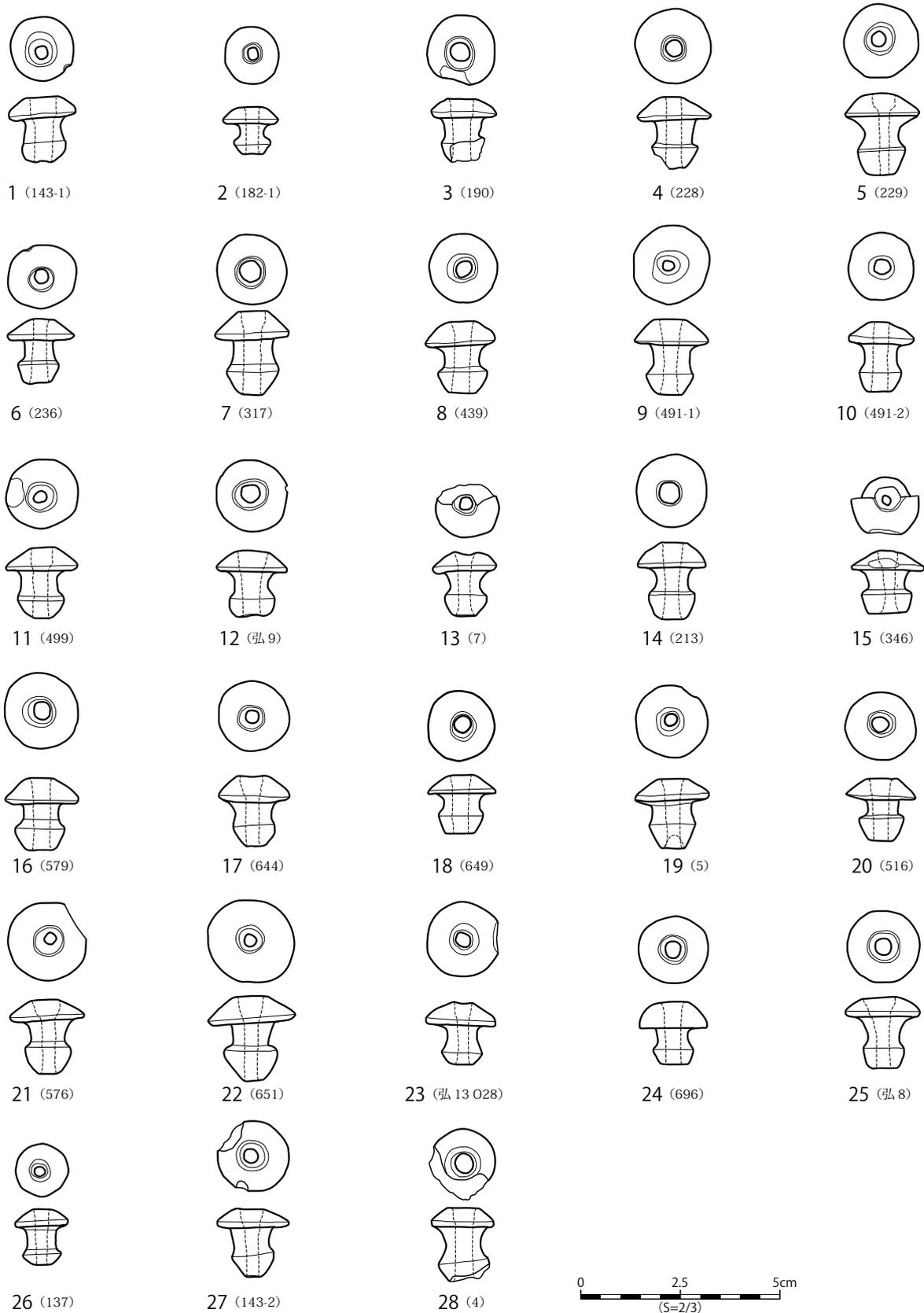
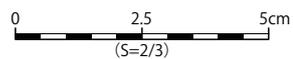
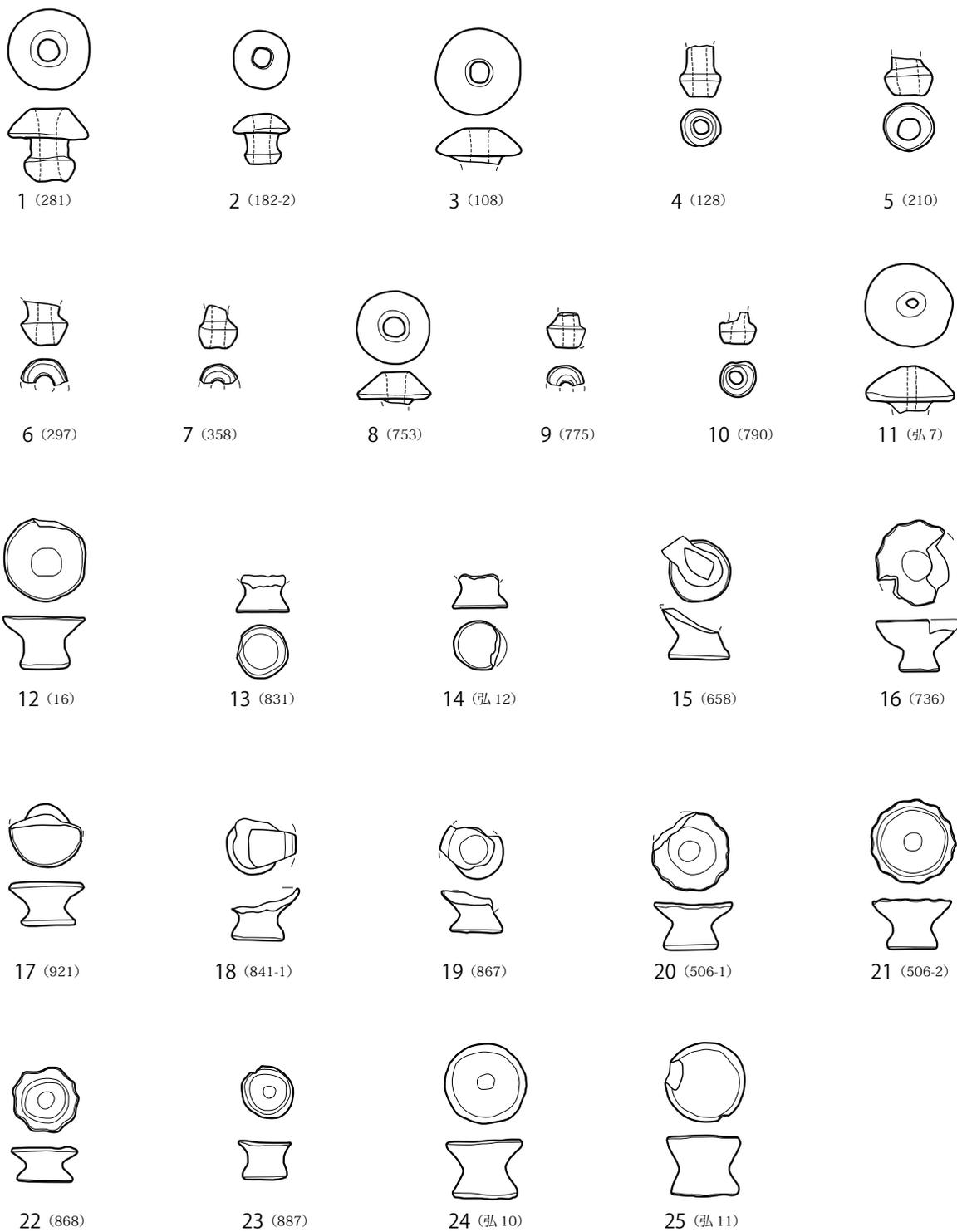


図67 土製耳飾1 (ネジ状)



1-11 : ネジ状、12-22 : 猪口状、23-25 : 臼状

図 68 土製耳飾 2 (ネジ状・猪口状・臼状)

期の西区V層のほか、山王IV上層式期のIV上層にも認められる点はネジ状と異なる。グリッド別でRグリッド3点が目立つ。図16-20・21はセットで取上げされており注目される。

形態は側面が括れた円柱（一葉双曲面）で、中央が狭く、両端に向かって開く。外部と内部の径が大きく異なるのが特徴である。耳栓の耳朶の穿孔箇所に、はめ込むという用途を考えると、中央の括れた円柱部が装着部と考えられる。器壁が薄い。調整はナデの後に磨き、その上を赤漆で覆うものが多い。図68-12・16のように側面の湾曲が弱いものから、図68-17・20・22のように屈曲に近いものまである。また外部周縁を花卉形に波状にするものがある。図68-16・20・21・22の4点ある。特に図68-20・21はセットで出土しその特徴が共通する。

猪口状の大きさは高さ8～14mm・平均11mm、外部径13～23mm・平均17mmで、ネジ状に比べ高さは低いが、外部径はほぼ同じである。外部以外の各部位の径は、装着部8～10mm・平均8.9mm、内部12～15mm・平均12.8mmで、ネジ状に比べ最大値は同じだが、最小値がやや大きい。重さは1.1～2.4g・平均1.7gで、薄造りのため、ネジ状に比べ軽量である。ほぼ全て赤彩が施される。

c. 臼状（図68-23～25）（図版61）

3点ある。3点とも完形・略完形である。全て西区出土ある。内訳は西区IV上層1点、不明2点で、山王IV上層式期のIV上層にも認められる点は猪口状と同じでネジ状と異なる。グリッドはRグリッドである。

形態は側面が括れた円柱（一葉双曲面）で、中央が狭く両端に向かって開く。外部と内部の径がほぼ同じ点の特徴である。耳栓の耳朶の穿孔箇所に、はめ込むという用途を考えると、中央の括れた円柱部が装着部と考えられる。側面の湾曲が弱く猪口状に比べ器壁が厚い。調整はナデの後に磨き、その上を赤漆で覆うものが多い。猪口状に比べ外部周縁の装飾はない。

臼状の大きさは高さ9～14mm・平均12mm、外部径13～18mm・平均16mmで、猪口状とほぼ同じである。外部以外の各部位の径は、装着部8～12mm・平均10.2mm、内部11～17mm・平均14.4mmで、猪口状に比べ装着部の径が大きい。重さは1.1～3.0g・平均2.3gで、猪口状に比べ重い。ほぼ全て赤彩が施される。

第7節 集中出土地点について

石製玉類、土玉類、土製小型垂飾、骨角製装飾品には、狭い範囲から集中して検出された例が複数ある。実際、出土状態のまま土壌ごとに取り上げられたのが図65-44・45（図版59）である。図65-45は西区Vc4層、図65-44は注記がないが、西区V層とみられる。このように、出土状態のまま取り上げを行ったのは、玉類の用途を知るうえで貴重である。細かな資料を丁寧に掘り上げ、意識的に記録に残そうとした当時の調査参加者の努力には敬意を表したい。

図65-44は4点、図65-45は16点が一括出土する。図65-44は土玉類の平玉3点と土製小型垂飾a類で構成される。それぞれ、径や長さが7mmほどの大型品である。平玉は形態や製作法が類似することから製作者が同じで一連の資料であったとみられる。図65-45は括れ玉A類3点と土製小型垂飾a類13点で構成される。括れ玉3点と土製小型垂飾a類13点はそれぞれまとまっており、一連のものだとすると、括れ玉と土製小型垂飾を部分ごとにまとまりをもたせながら、組み合わせていたと推定される。

このほか、出土時にまとまって検出されたとみられる例が、台帳の記載から散見される（表11）。土玉類391点中142点（36%）、土製小型垂飾399点中168点（42%）、土製耳飾54点中9点（17%）が該当し、層位やグリッドがまとまっているように、かなり集中的に検出されたようである。

なお、土玉・土製小型垂飾・土製耳飾は、遺構と関連せずに検出され、西区ではばらつきがあるものの出土地点がある程度集中し、遺物が密集する層があるという傾向がある。これらの遺物は遺構とは異なる脈略でまとまって廃棄されたものと考えられる。

第8節 円形土製品 (図69-1) (図版62)

周縁を花卉状に刻んだ円盤状の土製品。半分ほどが欠ける。1点ある。径2.6cm、厚さ0.4cmで薄い。

第9節 ミニチュア土器 (図69-2・3) (図版62)

2点ある。形態は深鉢形と壺形がある。いずれも大洞A2式期の西区V層出土である。2は深鉢形である。径3.2cm、高さ3.0cmである。手づくねでつくられ、指圧痕が残る。3は壺形である。口径3.6cm、高さ3.0cmの無頸壺である。

表11 土玉類、土製小型垂飾、耳飾の集中出土例の組み合わせ

| 台帳 番号 | 土玉類 | | | | | | | | | | 土製小型垂飾 | | | | | 耳飾 | | |
|----------|-----|---|----|----|---|---|----|---|----|----|--------|---|---|---|---|----|-----|-----|
| | 丸 | 棗 | 括A | 括B | 方 | 平 | 楕円 | 管 | 円盤 | 施文 | V字 | a | b | c | d | e | ネジ状 | 猪口状 |
| 821 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 125 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 829 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 536 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 832 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 680 | 2 | | 1 | | 1 | | 3 | | | 1 | | | | 2 | 1 | | | |
| 749 | 1 | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 414 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 817 | 1 | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | |
| 548 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| 359 | 1 | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 7 | | | | |
| 729 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 797 | | | 3 | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 562 | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 626 | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 630 | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 617 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 641 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 752 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 689 | | | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| 130 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 534 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 760 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 735 | | | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 712 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | 2 | | | |
| 475 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 625 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 769 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 634 | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 615 | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 819 | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 544 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 624 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| 783 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 715 | | | | | 2 | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 713 | | | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 804 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 731 | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 110 | | | | | 1 | | 1 | | | | | 1 | | | | | | |
| 494 | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 669 | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 686 | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 690 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 730 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 722 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 4 | | |
| 773 | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | |
| 820 | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | |

| 台帳 番号 | 土玉類 | | | | | | | | | | 土製小型垂飾 | | | | | 耳飾 | | |
|----------|-----|---|----|----|---|---|----|---|----|----|--------|---|---|---|----|----|-----|-----|
| | 丸 | 棗 | 括A | 括B | 方 | 平 | 楕円 | 管 | 円盤 | 施文 | V字 | a | b | c | d | e | ネジ状 | 猪口状 |
| 671 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 705 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 789 | | | | | | 1 | | | | | | 3 | | | | | | |
| 8 | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | |
| 285 | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | |
| 672 | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | |
| 284 | | | | | | | 6 | | | | | 1 | 1 | 3 | 10 | | | |
| 665 | | | | | | | 2 | | | | | 1 | | | 1 | | | |
| 786 | | | | | | | 2 | | | | | | | | 1 | | | |
| 728 | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 216 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | |
| 771 | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | 1 | | | | |
| 738 | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | |
| 785 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 | | | |
| 802 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | |
| 638 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| 856 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| 596 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| 441 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | |
| 556 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | |
| 782 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | |
| 768 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| 719 | | | | | | | | | | | | 4 | 1 | | | | | |
| 716 | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | |
| 840 | | | | | | | | | | | | 2 | | | 1 | | | |
| 243 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | |
| 342 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | |
| 788 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | |
| 761 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | |
| 409 | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | |
| 528 | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | |
| 603 | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | |
| 183 | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | |
| 291 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | |
| 459 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | |
| 784 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | |
| 140 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | |
| 569 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | |
| 714 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | |
| 174 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 247 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 391 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 570 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 653 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 664 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 724 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 733 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 812 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 143 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| 182 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| 491 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| 506 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |

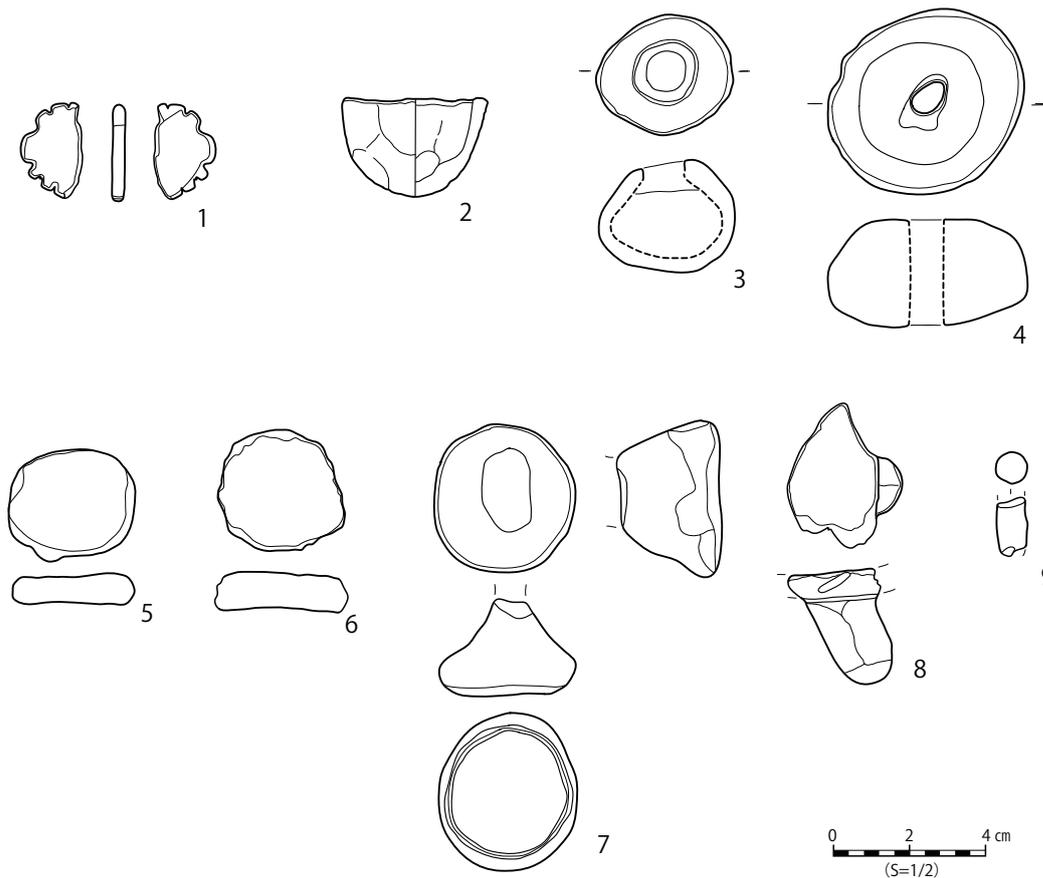


図 69 土製品（円形・ミニチュア・有孔・円盤状ほか）

第10節 有孔土製品（図69-4）（図版62）

丸餅形で中央に貫通孔がある土製品である。1点ある。西区V層Sグリッド出土である。径5cm程、厚さ2.9cmである。

第11節 円盤状土製品（図69-5・6）（図版62）

土器片利用品で2点ある。2点とも土器片の無文部を利用する。径3cm程の小型である。6は東区23層出土で大洞C2式期に属す。

第12節 その他土製品（図69-7～9）（図版62）

図69-7～9は土製品あるいは土器装飾の一部とみられるが、どの部位か判別ができないものである。3点ある。7は径3.7cmの円錐形で、上面は破損する。底面には周に沿って沈線が巡る。赤色顔料の付着はなく、全体的に劣化する。土偶の一部の可能性はある。8は中空土偶の腕部あるいは脚付土器の脚部とみられる。棒状の箇所は長さ2.6cm、径1.6cmである。9は棒状で両端を欠く。長さ1.5cmが残り、径0.8cmである。

（渡邊瑛彦・杉山一樹・上條信彦）